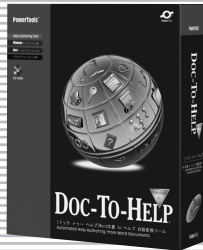


Products Review



Word文書をヘルプファイルに変換できる
ヘルプ作成ツール

Doc-To-Help 7.0J Professional Edition

精進湖計算機
立中 秀樹 TATENAKA, Hideki

Software Information

OS Windows 98/Me/NT4.0 (SP3以上)
/2000/XP/Server 2003

開発環境

- Word 2000/XP/2003
- .NET Framework 1.0/1.1
- VB6.0ランタイム、VC++ 6.0ランタイム
- Internet Explorer 5.5以上
- MDAC 2.5以上

※.NET Framework 1.0はService Pack 2以上が必要。

※Windows 98/MeではInternet Explorer 6.0以上が必要。

価格 84,000円 (パッケージ版)
67,200円 (ダウンロード版)

問合せ先

グレイプシティ株式会社

TEL : 022-777-8211

FAX : 022-777-8233

URL : <http://www.grapecity.com/japan/>

MAIL : sales@grapecity.com

手間がかかるヘルプ作成

最近ではアプリケーションをダウンロード販売で購入するケースが増えてきました。これにより、従来、紙で供給されていたマニュアルは電子媒体に変わってきています。実際に最近のソフトウェアではマニュアルがHTMLやPDFで供給されることが多くなってきました。

電子媒体のマニュアルは検索や部分的な印刷ができるなど“使う側”のメリットは大きいのですが、“作る側”からすると非常に面倒なものと言えるのではないのでしょうか。とくにヘルプファイルを作成する場合は、専用のツ

ルを使用しなければならず手間がかかります。ヘルプ作成用のツールは、無料のものから有料のものまで数多くありますが、使い方が難しかったり、機能がチープすぎて使いたい機能がなかったりすることがよくあります。

現在、Windowsアプリケーションで使用可能なヘルプとして、WinHelp、HTML Help、Microsoft Help 2.0などがありますが、これらはヘルプ作成用のツールを使用してソースファイルを作成しコンパイルして生成しなければなりません。ヘルプを作成するためには、アプリケーションのプログラミング同様にある程度の技術が必要となるのです。

今回紹介するDoc-To-Help 7.0J (以下Doc-To-Help) は、この独自のソースファイルの代わりに「Word文書」を使用することでヘルプ作成の敷居を低くしたほか、複雑なヘルプの動作をGUIで簡単に設定できるようにしたツールです。

以降ではDoc-To-Helpを用いて実際にヘルプファイルを作成し、使い勝手などを紹介してゆきます。

どんなヘルプが作れるの？

Doc-To-Helpには、StandardとProfessionalの2つのエディションがあり、主に表1・2のような機能を持っています。

とくに便利なのは、複数の種類のヘルプを作成できる機能です。JavaHelp 1.1.3の生成も可能なので、Windowsアプリケーションに限らず利用できます。

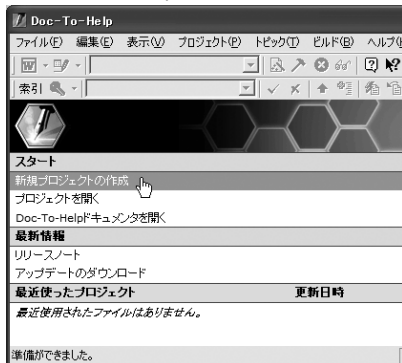
また、モジュラーヘルププロジェクトを用いれば、複数のヘルププロジェクトを組み合わせて大規模なヘルプを構築することもできます。この機能を使えば、ヘルプの分割も可能で、大規模ヘルプから複数の小さなヘルプを作成することもできます。

このほかにもアプリケーション用ヘルプやオンラインヘルプを作成する上

Technology Tools

- Visual Basic
- Visual C#
- Visual C++
- SQL Server
- Oracle
- Access 2002
- ASP.NET
- Other:
 - Word 2003

図1：Doc-To-Helpの起動画面



で便利な機能が数多く用意されています。

ヘルプファイルの作成

実際にWord文書を作成し、ヘルプファイルを生成してみましょう。

Doc-To-Helpを起動し、初期画面(図1)から「新規プロジェクトの作成」を

図2：Test01ヘルププロジェクト



クリックします。すると、「新規プロジェクトウィザード」が起動するので、プロジェクトファイル(拡張子は「.d2h」)、文書テンプレート、出力ターゲットを順に指定して新規プロジェクトを作成します。ここでは、

- ・プロジェクトファイル名「Test01」
- ・文書テンプレート「標準A4テンプレート」
- ・出力ターゲット「HTML Help 1.x」

を選択しました。

「Test01.d2h」というプロジェクトファイルを作成したので、指定したフォルダ内に、テンプレートを元にした「Test01.doc」というファイルが自動生成され、このファイルがWordで開いた状態になります(図2)。

■作り方は通常のWord文書と同じ

ヘルプファイルの基本的な機能として、目次とキーワード検索、テキスト検索があります。通常のヘルプ作成ツールでは、特殊なコマンドやマクロであらかじめデータにさまざまな脚注を挿入しておき、ヘルプ生成時にこの脚注をヘルプコンパイラが判断してこれらのトピックへのリンクを自動生成します。

しかしDoc-To-Helpでは、Wordの段落スタイルを設定するだけで、これらのトピックへのリンクを自動生成できるので、特殊なコマンドやマクロを実行する必要がありません。

実際に、先ほどウィザードで作成し

表1：Doc-To-Helpの主な機能

機能	Standard	Professional	
ひとつのWord文書で6種類のヘルプを生成	○	○	
専用GUI(プロジェクトエディタ)	○	○	
条件付きテキストの使用	○	○	
モジュラーヘルププロジェクトの構築	ヘルプの分割(モジュラーヘルプ)	○	○
	個々のヘルプに自動的に目次を追加(モジュラーTOCユーティリティ)	×	○
複数ソースファイルの統合	○	○	
GUI内でのWord文書編集	○	○	
グラフィックスの自動変換	○	○	
トピック内ジャンプ	○	○	
用語集の自動生成	○	○	
Microsoft Help 2.0の[F1]ヘルプのサポート	×	○	
Microsoft Help 2.0のコンテキスト文字列のサポート	×	○	
.NETアセンブリのリファレンス情報の文書化	×	○	

表2：Doc-To-Helpで生成可能なヘルプ

種類	ヘルプの動作環境
WinHelp 4.0	WinHelp 4.0 (32ビットのみ)
HTML Help 1.2/1.3	Internet Explorer 5.5以上
標準HTML 4.0	HTML 4.01に準拠
MS Help 2.0	Visual Studio .NET 2002/2003 [*1]
JavaHelp 1.1.3	Sun Microsystems JavaHelp 1.1.3/2.0 [*2]
印刷マニュアル	Word 2000/XP/2003

*1) ヘルプの作成にはVisual Studio .NET 2002/2003およびVisual Studio Help Integration Kit 2003が必要。

*2) ヘルプの作成にはSun Microsystems JavaHelp 1.1.3または2.0が必要。